1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0270800337		
法人名	バンドーウエルフェアグループ株式会社		
事業所名	グループホーム　バンドー大湊		
所在地	〒035-0075　青森県むつ市真砂町7番1号		
自己評価作成日	平成26年10月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会
所在地	〒030-0822　青森県青森市中央3丁目20番30号　県民福祉プラザ3階
訪問調査日	平成26年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームで暮らしていても、季節を感じ出来るだけ家庭と同じように安心して暮らして頂けるよう支援を行っております。研修機会の充実を図り、職員がスキルアップでき、より良いケアが提供できるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人の理念の基、事業所独自の理念を皆で考え作成している。理念の実践に向け勉強会や会議の開催をし、日々のサービスに反映している。ご家族には、年に2回利用満足度調査を実施し、意見・要望を取り入れより良いサービス提供に努めようとする姿勢が見られている。理念がケアに反映されており、入居者のペースを尊重し、その時々の思いや願いに寄り添えるよう、本人の意向の把握に努めている。また、入居者が自分の役割りを見出し、実践することで家庭と同じように安心して暮らして頂ける生活を支援している。管理者・職員共に協力し合い、入居者本意で取り組まれている笑顔の素敵な事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、それを踏まえた事業所の理念を作成し実践につなげている。理念は、共有スペースに掲示している。	法人の理念のもと、毎春事業所独自の理念を職員間で話し合い作成している。、共有スペースに掲示し、意識付けすると共に、日々のサービス提供場面に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に住宅が少ないが、散歩や買い物に出かけた際、挨拶を交わすなどして理解を深めて頂いている。また、町会や民生委員の協力もあり、ねぶたや花火大会の見学をさせてもらったり、手踊りの慰問や市内の小学生に訪問頂いている。	立地場所が工場地帯ということもあり、近隣には住宅が少ないものの、園児や地域住民の散歩コースである為、挨拶を交わすなどの交流はしている。また、小学生の歌や手踊りの訪問、地域行事への参加を通し、地域の一員として交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、入居者様の御家族や町内会長、民生委員、行政の担当者の方に支援の方法や実例を基に話す機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、入居者様の御家族や町内会長、民生委員、行政の担当者の方にグループホームの状況等を話し、意見交換を行っている。また、高齢者介護に関する情報の提供を行っている。	運営推進会議は、2ヶ月に一回開催されており、事業所の近況や外部評価の報告を行うほか、助言をもらい、サービス向上に繋げている。また、高齢者介護に関する事を勉強会として会議に盛り込み情報提供している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価の結果や自己評価を提出報告している。行政担当者が運営推進会議の委員となっており、日々の取組みや評価報告を行っている。	運営や現場の実情等を伝え、連携を図る姿勢が見られる。連絡を密にとり、双方の協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束の内容やその弊害について理解しており、拘束を行わないケアを提供している。毎年の研修項目にあげられており、内部研修で身体拘束についての理解を深めている。	内部の勉強会にて、身体拘束についての理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日々の関わりに関しても、スタッフ間で振り返り、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年の研修項目にあげられており、内部研修で理解を深めている。管理者も、日頃から職員の言動やケア方法に注意し防止に努めている。また、虐待防止の為、高齢者虐待の種類をスタッフの目のつく場所に掲示し注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用している方はいないが、内部研修等により理解を深めており、必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って利用料金やケアの方法等、説明を行い理解と納得を図っている。また、疑問や質問に対しては随時説明を行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や御家族の面会時に声掛けし、要望を聞くようにしている。また、法人本部では、利用者様御家族に満足度調査に関するアンケートを行うとともに、要望受付に関する文書を年2回送付している。	入居者からは、日々のケアで意向を把握し対応している。ご家族には、年2回満足度調査を実施し、意見・要望の受付をし、対応している。また、日頃の面会時には気軽に話しやすい雰囲気作りに努め、意見の吸い上げを行っている。外部に対しても意見等を表せる機会を設け説明している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見をカンファレンスや日々の業務の中で随時聞く機会を設けている。また、グループホーム事業部の統括ケアマネジャーがその意見を集約したものを運営者に提案している。	日々の業務の中や、カンファレンスにて職員の気付きや意見を聞く機会を設けている。良い意見は、可能な限り業務に反映させている。また、段階を経て意見を集約したものを、代表者に提出し検討するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホームの統括ケアマネジャーを通じ、職員の勤務状況を把握している。キャリアパス制度の導入や介護職員の処遇改善を行って職員に向上心を持たせるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、内部研修を行っている。外部研修の開催時には職員へ掲示しており、周知を図っているが、職員の経験や能力に応じては、より専門性のある研修の受講機会を設けている。スキルチェックシートを用い、自己の振り返りを行うと共に、自己目標を立てる事でスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は毎月、同法人事業所のリーダー会議に参加し、情報交換や勉強会を行っている。また、その内容を全職員に周知し共有を図っておりサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問したり、見学に来てもらい、不安の軽減を図り、御本人の意見や希望を把握し、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の際、御家族からも話を聞き希望や意向を聞き出し、不安が解消できる様に努めている。また、契約に至った場合は、改めてお話伺いニーズをより深く理解できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の状態や希望、御家族の要望を踏まえ、必要なサービスを見極め対応できるか検討している。また、状況に合わせ他のサービスの利用も勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に、日々の生活を楽しんだり、一緒に考えたり、また、職員が入居者様に支えられたりと、お互いに必要である大切な存在だとういう関係を築けていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回のホーム便りで、御本人の日々の様子を写真付きで報告したり、面会時や電話で随時生活状況を伝えながら、御家族の意向を確認し一緒に支え合う関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の希望に応じ、馴染みの場所へ外出出来るように家族等の協力を得ながら努めている。また、知人・友人がホームに出入りしやすい雰囲気作りに努めている。	馴染みの関係が途切れないよう、面会の制限はせず友人・知人も出入りしやすいよう声掛けを行っている。また、家族の協力を得ながら、墓参りや美容院等の外出、電話や手紙のやりとりなど、本人の希望に添った支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を職員全員が把握しており、孤立することなく、関わりあえるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じる旨を、御本人・御家族へ説明している。また、必要に応じ関連施設や法人のサービス資源の情報提供を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、生活歴や暮らし方の希望を御本人や御家族から伺っている。また、日々の会話にて希望や思いを把握し、本人本位に検討している。収集した情報は、全職員で共有し、カンファレンスや日々の業務の中で話し合っている。	入居の際には、出来るだけ多くの情報収集を行っている。関わりの中での仕草や表情などから真意を推し測り、意向の把握に努めている。毎月カンファレンスを行い、本人本位に検討、スタッフ間での情報を共有し合い生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族、担当ケアマネージャー、病院等から生活歴や生活環境等の情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の一日の過ごし方や生活習慣で出来る事、出来ない事等を把握し、変化を見逃さないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでモニタリングを行い、職員間で話合った上で介護計画を作成している。また、作成の際には御本人・御家族の意向を確認し、作成したものを確認してもらっている。	入居者主体の暮らしを反映した介護計画であり、本人、家族からの意向が盛り込まれている。毎月のカンファレンスにてモニタリングを行い、職員間で話し合いしたものを家族に確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってケアを実施し結果や気付きを記録しており、職員間で共有しながら実践や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時、ドライバーと職員の二人で行っている。また、法人内にある車両を利用した外出行事を行っている。身体状況が重度化した場合には、家族の希望に応じて法人内の有料老人ホームへの入居が出来るように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し、町内会長や民生委員、教育機関に呼びかけを行っている。地域の祭事への参加や、児童訪問、避難訓練等協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診ができる様支援している。状況により専門医への受診を御家族と相談し適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医、希望する医療機関への受診の支援が出来ている。受診対応は事業所で行っているが、ご家族との報告・連絡・相談は密にとられ、情報の共有が出来ており、適切な医療を受けられるよう支援されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に准看護師資格保有者がおり、日常の健康管理について相談したり助言をもらっている。また法人本部の看護師とも日常的に相談連絡が出来る状況にあり、適宜助言を受け、適切な支援が受けらるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合には、面会にて随時状態の確認を行い病院関係者と情報交換し、御家族へ報告相談し連携を図り、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	重度化した場合や終末期の対応について説明を行っている。御家族の意向を聞きながら、医療機関とも連携を図り可能な限り対応している。	看取りに関する指針を定めている。契約時に、重度化した場合や終末期の対応について、家族へ説明し、意思確認・話し合いの場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にて救命救急講習を全職員が受けており、急変時や事故発生時に対応できるよう訓練している。また、法人内にもAED対応の人形があり内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間を想定した避難訓練を年に2回行っている。避難訓練後のカンファレンスでは、発生時の対処方法や指導を受けた点について、職員間で共有している。非常食や飲料水、ランタン、カセットコンロなどを備蓄しており、同敷地内にある法人の事業所との協力体制もできている。	防災訓練は、消防署の指導のもと、家族や町内会長が参加し年2回行っている。同敷地内の法人事業所との合同訓練の実施、市の避難訓練にも参加している。また、災害時の食料等の備えも整えられていた。	火災の訓練は出来ているが、これからは台風や大雪等の自然災害の具体的な想定も必要と思われます。自然災害の備えも固め、対策を整えることを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の思いを大切に人格を尊重し、プライバシーを損ねることの無いように、言葉がけに限らず、排泄、入浴など、各場面において配慮した対応を行っている。また、人権の尊重やプライバシー確保に関する「介護サービス従事者業務水準の指針」を作成しており、年に1回研修を行っている。	日々の関わりの中で、職員間で互いに気を付け、継続的に入居者の尊厳ある姿を支えていけるような声掛けや対応を行っている。年一回の内部研修を実施し、人格の尊重とプライバシーの確保について振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の状態やペースに合わせ、質問の形式を工夫したり、声掛けの工夫をしなるべく自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのﾍﾟｰｽを損ねないように話を聞き、状況に合わせながら見守りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の希望や好みを優先し、衣類等の選択をして頂いている。また、御家族の協力を得て馴染みの美容院へ出掛けられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望を聞き、栄養バランスに配慮した上でメニューを決めている。好き嫌いに応じ内容を変えたり、調理形態の配慮を行っている。また、季節に合わせ、桜餅やおはぎ、バーベキュー、流しそうめんなどを行い楽しんで頂けるよう工夫している。簡単な調理や盛り付け、片づけも一緒に行っている。	食材を見ながら、その日に入居者の希望に応じメニューを決定している。ひとり一人の機能を活かしながら、調理・準備・片付け等を共に行っている。また、個人の食器を用意したり、季節に応じた行事食も取り入れ、食への楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録し把握した上で支援している。毎日の献立を画像に残し、メニューの見直しに役立てている。法人内の栄養士による栄養指導もあり、カロリーや栄養バランス等の助言をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の洗浄やうがいを促し、必要に応じ介助にて対応している。また、週1回義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録、把握しており時間を見て声掛け誘導し、排泄の失敗を減らすように個人個人に合わせて支援している。リハビリパンツと尿取りパット利用の方が、尿取りパットのみに変わった方もいる。	個々の排泄パターンの把握に努め、パターンに応じた個別の誘導を行っている。羞恥心に配慮した声掛けを行い、トイレでの排泄が出来るよう支援が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	軽い運動や食物繊維を多く含んだ食材、牛乳を利用し自然排便が出来る様に支援している。便秘が続くようであれば、主治医との相談後、薬での調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入居者様の入浴習慣や好みの湯温に合わせ、週に2～3回を目安に入浴を促している。入浴を好まない方には、時間を置いたり、声がけを工夫し気持ちよく入浴出来る様に努めている。体調や状態に合わせ、清拭やシャワー浴の対応も行っている。	職員が入浴日を設定せず、入居者の希望に応じていつでも入れるような体制をとっている。体調や状態に合わせた対応も行っている。滑り止め等の安全面にも考慮し、一対一の介護を行う事で、ゆっくりとくつろいで入浴して頂ける配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣を把握しており、その時の状態に合わせ声掛けや傾聴し安眠できるように支援している。また、主治医とも相談しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用を把握できるように個人ケースにファイルしており、職員がいつでも確認できるようにしている。薬が変更になった場合には職員全員が周知できるように申し送りし、症状の変化等観察、記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や御家族からの情報収集により、御本人の希望、状態に合わせながら役割や活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により散歩や買い物等日常的に外出できる環境にある。また、ホーム行事にて外出したり、御家族の協力を得ながら可能な限り外出出来るように支援している。	入居者の希望や季節に応じて外出行事の支援ができている。習慣や楽しみに合わせて、ご家族の協力を得ながら外出支援を行っている。敷地内の散歩や菜園の畑仕事を行う事で、心身の活性化に繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で行っている。御本人の希望や能力に合わせて、買い物時の支払いを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望により代筆をしたり、電話をかける時は、番号を押すなどし支援している。届いた手紙を届けたり、電話の取次ぎは随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の壁面には、職員と入居者様が一緒に作成した季節に合わせた作品を飾っている。室温・温度にも留意し、1日3回確認し調整している。	入居者と職員の季節を味わえる合同作品が壁に飾られていた。共有スペースは、居心地良く思い思いに過ごせるよう、テーブルやソファーの配置に配慮された空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに畳スペースを作ったり、テレビが見やすいようソファーを配置することで、入居者様が交流し楽しめるようにしている。また、利用者の希望に合わせ、時折、雰囲気を変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れた馴染みの物や位牌、遺影写真等を持ち込んでもらっている。また、好みの物を飾ったりしている。	入居前には、家族に馴染みの物を持ってきても良いと説明をしている。居室は、本人の意向を確認しながら配置や飾り付けを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に、御自身の能力を活かせた生活ができるようにトイレや浴室に手すりが設置されている。混乱を招くことの無いように希望に応じ、自室前には目印を設置している。		